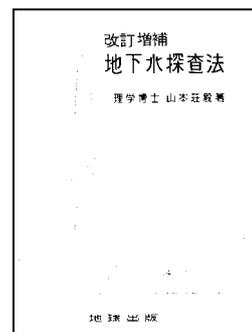


33. 改訂増補 地下水探査法

山本荘毅著
地球出版（1966）
初版（1962）
A5版 p.316
定価 1,200円



目次

序、概説

目次

第1章 地下水調査方法論

I 国土調査における地下水調査、I・1 調査の限界及び成果、I・2 調査方法について、I・3 準則野構成、I・4 準則の性格

第2章 予備調査

I 準備作業、I・1 既存資料の収集・整理、I・2 地形分類予察図の作成、
II 現地調査、II・1 地形面の解析、II・2 地質路頭の調査、II・3 水状況の予察、
II・4 物理探査
III 観測井などの決定、III・1 観測井の配置、III・2 水準路線、III・3 物理探査測線・測点の配置および地質ボーリング実施地点
IV 整理、IV・1 観測井一覧表、IV・2 観測井一覧図、IV・3 説明書、IV・4 弾性波探査の計画書、

第3章 本調査

I 地下水IIに対する基本的考え方、I・1 発生、I・2 貯留、I・3 帯水層の性格、I・4 運動、I・5 かん養、I・6 帯水層の漏洩、I・7 流出、I・8 水質、I・9 水温
II 探査法について、II・1 地質学的方法、地表地質図、地層の単位、構造、地形、地下地質図、II・2 物理探査、重力探査、地震探査、電気探査、電気検層、ガンマ線検層、地球科学的方法、地温による方法、II・3 試錐、試掘、試錐法の種類、実施と整理、さく手記録、掘進の速さの分布、孔径分布、温度検層、既設井、II・4 水文学的方法、降水量、地表水、地下水位
III 地下水資源の定量的評価、III・1 評価第一段階、関係図面の調整、III・2 評価第二段階、水理学的コンスタント、透水量係数と貯留係数、ふるいわけ試験について、浸透計による測定、井戸法、III・3 評価の第三段階、評価の手続き、湧泉の形態をとる水、岩盤中の水、沖積物質中の水

第4章 整理と報告書

I 地下水調査報告書の性格論
II レポートの内容・体裁について

地下水ブックガイド

付表

- I 数量単位の換算
 - II 水質単位の換算
 - III 地下水関係法律
-

紹介コメント

序で著者が述べているように、本書は①教科書であるよりも技術書として現場で利用できるものにした。②類書が少ないため術語の定義にページを割いている。それらは、文部省大学学術局、学術用語審議会の土木工学、地球物理学、地理学部会の決定、農業土木学会の用語に従った。③国土調査法における地下水調査の趣旨にのっとり、水の循環という観点から地下水を扱ったので地表水との関係を強く出した。調査よりも探査に重点をおくと共に報告書についても一章を設けて詳述した。④地下水探査では最も重要な問題であるのに国土調査ではボヤかしている水理学的定数の問題に一つの焦点をおいている。・・・など 50 年前の執筆当時から今日の地下水学理論の底流を極めており著者の広さ深さ先見性に敬服するものである。